

平成20年度全国学力・学習状況調査 調査結果報告書(北海道)【概要版】

発行：北海道教育委員会

発行年月：平成20年11月

平成20年4月22日(火)、道内のすべての市町村が参加し、平成20年度全国学力・学習状況調査が実施されました。

<目的>

- ・ 全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における児童生徒の学力・学習状況を把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ・ 各教育委員会、学校等が全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図る。
- ・ 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。

「平成20年度全国学力・学習状況調査」の参加状況等

調査の対象学年 小学校第6学年、特別支援学校小学部第6学年
中学校第3学年、特別支援学校中学部第3学年

調査の内容

教科に関する調査

主として「知識」に関する問題（国語A、算数・数学A）	主として「活用」に関する問題（国語B、算数・数学B）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 ・ 実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などにかかわる内容 ・ 様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容など

生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備状況等に関する調査

4月22日(火)に調査を実施した学校・児童生徒数

〔全道(公立)〕

調査対象学校数	公立小学校(実施率)	公立中学校(実施率)
	1,256校(99.9%)	665校(99.7%)
参加児童生徒数	47,414人	46,222人

小学校には特別支援学校小学部を、中学校には特別支援学校中学部を含む

〔全国(公立)〕

調査対象学校数	公立小学校(実施率)	公立中学校(実施率)
	21,685(99.9%)	10,120(99.3%)
参加児童生徒数	1,147,633人	1,030,521人

道教委としては、本調査の目的を踏まえ、文部科学省から提供された調査結果等
を分析し、本道における児童生徒の学習状況や学校の教育活動の状況等における成
果や課題を明らかにして、課題の解決を図る手立てを示すこととし、「平成20年
度全国学力・学習状況調査 調査結果報告書（北海道）」を作成・公表しました。

本報告書の作成に当たっては、本調査結果から見る本道の姿のほか、昨年度、発
表した「北海道学校改善支援プラン」を支える3つの柱「主体的に学び、学ぶ意
義や価値を理解する」「基礎・基本を確実に習得する」「日常生活を充実する」
にかかわる取組の検証や、学校改善のための重点的な取組の検証、今後さらに取り
組むべき必要のある具体方策等を示すようにしています。

学校教育に携わるすべての方々为本報告書を有効に活用し、学力向上をはじめと
する学校改善に取り組むことを通して、各学校における教育活動の一層の充実を図
り、本道のすべての児童生徒の健やかな成長を実現することができるよう期待して
おります。

概要版目次

1 調査結果から見られる本道の姿

児童生徒の姿

調査結果から分かる児童生徒の姿を示しました。

調査対象教科の平均正答率等

地域規模と学力

学習意欲と学力

学習習慣・生活習慣と学力

豊かな心と学力

学校の姿

調査結果から分かる学校の姿を示しました。

学校の状況

学習習慣と学力

学習意欲と学力

指導方法・指導体制と学力

豊かな心と学力

2 「北海道学校改善支援プラン」を支える3つの柱の検証

柱1 「主体的に学び、学ぶ意義や価値を理解する」

柱2 「基礎・基本を確実に習得する」

柱3 「日常生活を充実する」

それぞれの柱の内容にかかわり本道の実態を明らかにした上で、今後重点
的に取り組むべき内容について提言を行いました。

1 調査結果から見られる本道の姿

平成20年度に実施された全国学力・学習状況調査の調査結果から、次のような児童生徒や学校の姿が見られました。

児童生徒の姿

《調査対象教科の平均正答率等》

- 【国語】
- ・ A（知識）、B（活用）とも全国と比べて平均正答率がやや低く、A（知識）に比べB（活用）に関する問題の平均正答率が低い。
 - ・ 標準化得点による年度間の相対的な比較においては、昨年度とほぼ同様の傾向が見られる。

〔教科に関する調査における平均正答率〕 単位（％）

平均正答率		小学校国語				中学校国語			
		A （知識）	標準化 得点	B （活用）	標準化 得点	A （知識）	標準化 得点	B （活用）	標準化 得点
H20	北海道（公立）	60.5	98	46.4	98	72.7	99	59.0	99
	全 国（公立）	65.4		50.5		73.6		60.8	
H19	北海道（公立）	79.4	99	58.0	98	80.5	99	70.0	99
	全 国（公立）	81.7		62.0		81.6		72.0	

- 【算数・数学】
- ・ 小学校B（活用）及び中学校A（知識）、B（活用）は全国と比べて平均正答率がやや低く、小学校A（知識）は低い傾向があり、A（知識）に比べB（活用）に関する問題の平均正答率が低い。
 - ・ 標準化得点による年度間の相対的な比較においては、昨年度と同様の傾向が見られる

〔教科に関する調査における平均正答率〕 単位（％）

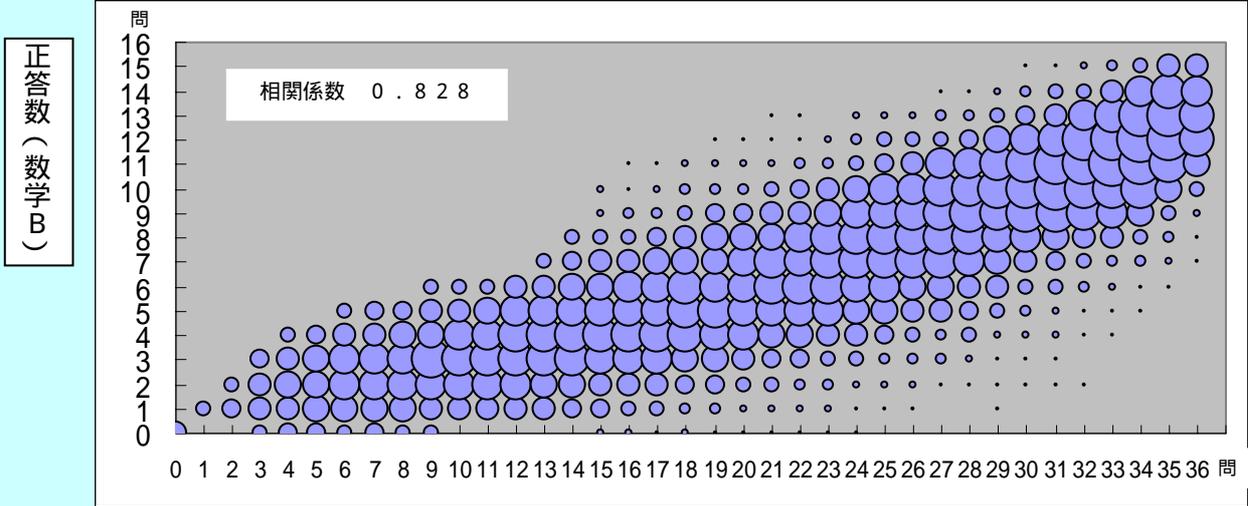
平均正答率		小学校算数				中学校数学			
		A （知識）	標準化 得点	B （活用）	標準化 得点	A （知識）	標準化 得点	B （活用）	標準化 得点
H20	北海道（公立）	66.4	97	47.7	98	60.3	99	45.9	99
	全 国（公立）	72.2		51.6		63.1		49.2	
H19	北海道（公立）	76.8	97	58.6	98	68.6	99	57.6	99
	全 国（公立）	82.1		63.6		71.9		60.6	

標準化得点：平成20年度調査と平成19年度調査の調査問題は異なり、年度間の平均正答率による単純な比較ができないことから、平成20年度及び平成19年度の全国（国・公・私）の平均正答率をそれぞれ100となるよう標準化した得点です。

【A（知識）とB（活用）の相関】

- ・国語、算数・数学とも、A（知識）の正答数が多い児童生徒は、B（活用）の正答数も多い。

〔中学校数学 A と数学 B の相関 バブルチャート〕



正答数（数学 A）

- ・ 数学 A の正答数が多い生徒は、数学 B の正答数も多く、数学 A の正答数が少ない生徒は数学 B の正答数も少ない傾向が見られる。

バブルチャート：A問題の正答数を横軸、B問題の正答数を縦軸にして、全ての児童生徒を座標に位置付けた図表。円が大きいほど、そこに入る児童生徒数が大きくなります。

相関係数：2つの変数間の関係の程度を1つの数値で表す指標。1に近いほど正の相関（A問題の正答数が多い児童生徒はB問題の正答数も多いなど）、-1に近いほど負の相関が強いことを表します。

《地域規模と学力》

道の平均正答率と比較して、大都市の中学校国語 B、数学 A、B にやや高い傾向が見られ、町村及びへき地の小学校国語 B、へき地の小学校算数 B、町村及びへき地の中学校の数学 A にやや低い傾向が見られ、その他はほぼ同様の傾向である。

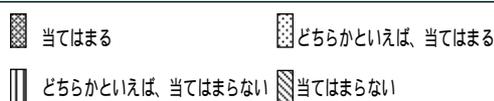
〔地域規模別の平均正答率〕

単位（％）

地域規模	年度	小学校国語		小学校算数		中学校国語		中学校数学	
		A （知識）	B （活用）	A （知識）	B （活用）	A （知識）	B （活用）	A （知識）	B （活用）
大都市・中核市	H20	62.7	49.0	68.7	50.4	74.6	62.0	64.1	49.1
	H19	80.7	61.3	78.9	61.1	82.0	72.1	71.7	60.7
その他の市	H20	59.2	44.8	65.1	45.9	71.3	56.7	58.0	43.5
	H19	78.5	57.2	75.2	57.3	79.5	67.8	68.1	57.1
町村	H20	57.8	43.3	64.0	44.9	71.4	57.0	56.8	43.8
	H19	78.0	56.9	75.1	56.4	79.2	67.6	67.2	56.4
へき地	H20	57.8	43.1	63.8	44.4	71.1	56.2	56.2	43.1
	H19	77.7	56.8	74.6	56.2	78.9	67.3	67.0	55.8
北海道（公立）	H20	60.5	46.4	66.4	47.7	72.7	59.0	60.3	45.9
	H19	79.4	57.8	76.8	58.8	80.5	69.6	68.7	57.6

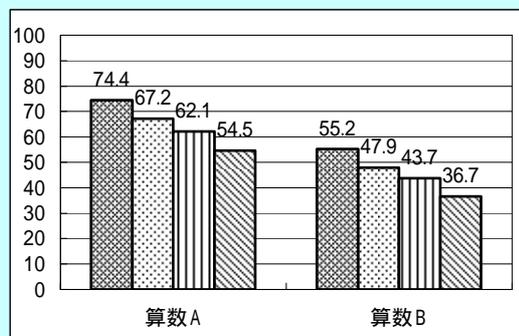
《学習意欲と学力》

国語、算数・数学の勉強が、好きな児童生徒、大切、役に立つと思う児童生徒の方が、平均正答率が高いなど、学習意欲と学力の関係は、昨年度と同様の傾向が見られる。



〔例〕質問61：算数の勉強は好きだ
当てはまると回答した児童の平均正答率がA（知識）で74.4%、当てはまらな
いと回答した児童の平均正答率が54.5%
となっている。

【小学校】



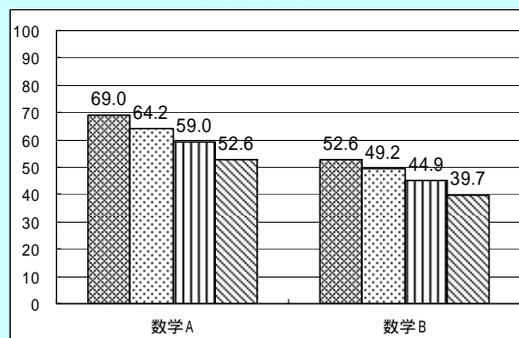
《学習習慣・生活習慣と学力》

予習や復習、宿題など、家庭での学習に取り
組んでいる児童生徒の方が、平均正答率が高い
など、家庭における学習習慣と学力の関係は、昨年度と同様の傾向が見られる。

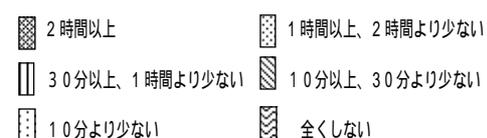


〔例〕質問28：家で学校の授業の復習
をしていますか
していると回答した生徒の平均正答
率がA（知識）で69.0%、全くしてい
ないと回答した生徒の平均正答率が52.
6%となっている。

【中学校】

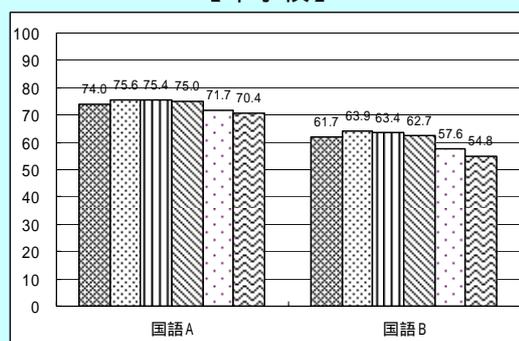


読書が好きで1日に10分以上読書をする児童
生徒の方が、国語と算数・数学の平均正答率がや
や高く、読書をする習慣と学力の関係は、昨年度
と同様の傾向が見られる。



〔例〕質問18：家や図書館で、普段（月
～金）、1日にどれくら
いの時間、読書をしませ
るか
10分以上の範囲で回答した生徒の平
均正答率がやや高く、1時間以上2時間
より少ない生徒の平均正答率が、B（活
用）で、63.9%、全くしないと回答した
生徒の平均正答率が54.8%となってい
る。

【中学校】

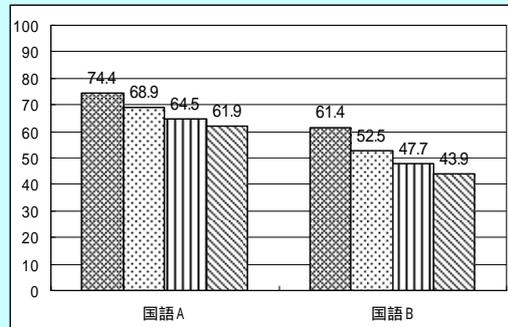


朝食を毎日食べている、起床時刻や就寝時刻等を決めている、栽培や調理などの体験をしている児童生徒の方が、平均正答率がやや高く、基本的な生活習慣や体験活動と学力の関係は、昨年度と同様の傾向が見られる。

〔例〕質問1：朝食を毎日食べていますか
毎日食べていると回答した生徒の平均正答率がA（知識）で74.4%、全く食べていないと回答した生徒の平均正答率が61.9%となっている。



【中学校】



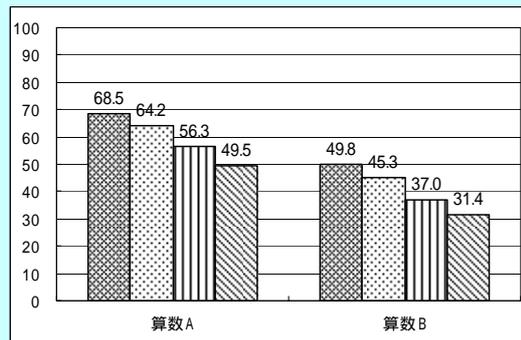
《豊かな心と学力》

物事を最後までやりとげとげうれしいと感じたことのある児童生徒の方が、平均正答率が高く、あきらめずに達成しようとする気持ちと学力の関係は、昨年度と同様の傾向が見られる。

〔例〕質問5：物事を最後までやりとげ
とげうれしかったことがありますか
当てはまると回答した児童の平均正答率がA（知識）で68.5%、当てはまらないと回答した児童の平均正答率が49.5%となっている。



【小学校】

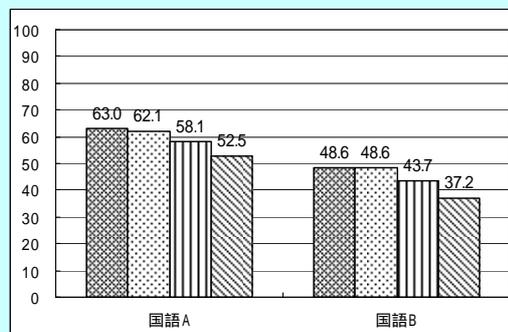


自分のよさに気付いている児童生徒、希望や目標を抱いている児童生徒の方が、平均正答率がやや高く、自分を高めようとするなどの気持ちと学力の関係は、昨年度と同様の傾向が見られる。

〔例〕質問7：自分には、よいところがあると思いますか
当てはまると回答した児童の平均正答率がA（知識）で63.0%、当てはまらないと回答した児童の平均正答率が52.5%となっている。



【小学校】

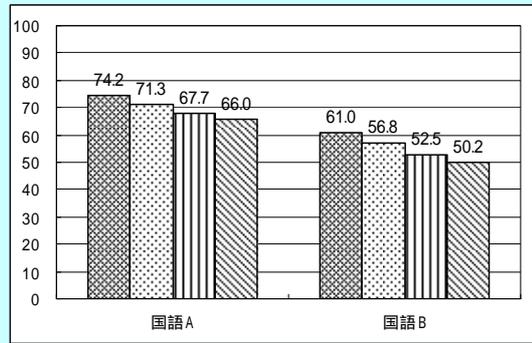


人の気持ちがわかる人間になりたいと思う児童生徒、人の役に立つ人間になりたいと思う児童生徒の方が、平均正答率が高く、よりよく人とかかわろうとする気持ちと学力の関係は、昨年度と同様の傾向が見られる。

〔例〕質問38：人の気持ちがわかる人間になりたいと思いますか
 当てはまると回答した生徒の平均正答率がA（知識）で74.2%、当てはまらなと回答した生徒の平均正答率が66.0%となっている。



【中学校】

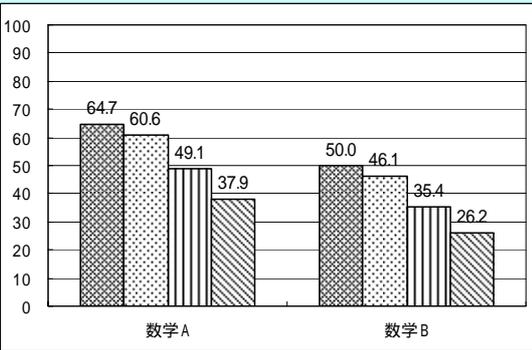


学校のきまりや規則を守っている児童生徒の方が、平均正答率が高く、規範意識と学力の関係は、昨年度と同様の傾向が見られる。

〔例〕質問34：学校の規則を守っていますか
 当てはまると回答した生徒の平均正答率がA（知識）で64.7%、当てはまらなと回答した生徒の平均正答率が37.9%となっている。

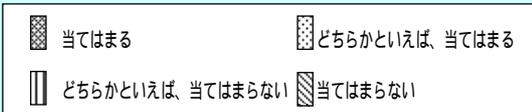


【中学校】

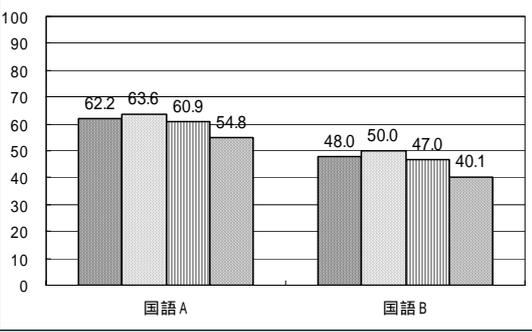


地域の行事に参加している児童生徒の方が、平均正答率が高く、地域とのかかわりと学力の関係は、昨年度と同様の傾向が見られる。

〔例〕質問33：今住んでいる地域の行事に参加していますか
 どちらかといえば当てはまると回答した児童の平均正答率がA（知識）で63.6%、当てはまらなと回答した児童の平均正答率が54.8%となっている。



【小学校】



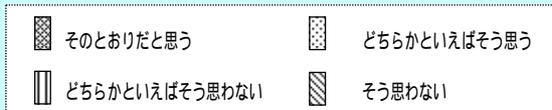
《学校の状況》

各学校の状況については、昨年度との比較において全道の平均正答率からのちらばり具合を表す標準偏差を見ると、小学校国語Aで大きくなっている。全体としては、昨年度と同様の傾向が見られる。

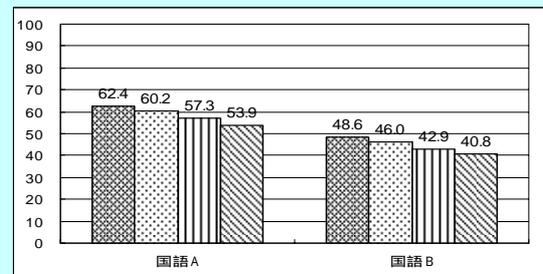
問題	年度	A問題				B問題			
		学校の平均正答数の北海道平均(問)	学校の平均正答率の北海道平均(%)	学校の平均正答率の中央値(%)	標準偏差	学校の平均正答数の北海道平均(問)	学校の平均正答率の北海道平均(%)	学校の平均正答率の中央値(%)	標準偏差
小国	H20	10.8	59.9	60.0	10.5	5.5	45.7	45.3	11.5
	H19	14.2	78.7	79.4	7.3	5.7	56.7	57.1	12.1
小算	H20	12.6	66.1	66.5	9.7	6.1	47.1	46.7	10.3
	H19	14.5	76.5	77.0	9.3	8.1	57.7	57.9	9.8
中国	H20	24.5	72.1	72.7	7.4	5.8	58.3	58.6	9.8
	H19	29.6	80.1	80.5	5.8	6.9	69.3	70.0	9.8
中数	H20	21.3	59.2	59.5	10.8	6.8	45.2	45.1	9.4
	H19	24.4	67.8	68.3	10.0	9.7	56.9	57.3	9.6

《学習習慣と学力》

児童生徒は授業中の私語が少なく、落ち着いていると思っている学校の方が、平均正答率が高く、学習習慣と学力の関係は、昨年度と同様の傾向が見られる。



【小学校】



〔例〕質問12：児童は授業中の私語が少なく落ち着いている
 そのとおりだと思うと回答した学校の児童の平均正答率がA（知識）で62.4%、
 そう思わないと回答した学校の児童の平均正答率が53.9%となっている。

「『朝の読書』などの一斉読書の時間を設けている」という項目と平均正答率については、強い相関が見られないものの、1日に10分以上読書をする児童生徒の方が、平均正答率が高い傾向が見られる。

〔例〕学校質問紙 質問21：「『朝の読書』などの一斉読書の時間を設けている」において、設けていると回答した学校の生徒の平均正答率がB（活用）で58.7%、設けていないと回答した学校の生徒の平均正答率が59.4%となっているが、

〔例〕生徒質問紙 質問18：「家や図書館で、普段（月～金）、1日にどれくらいの時間、読書をしますか」において、1時間以上2時間より少ないと回答した生徒の平均正答率がB（活用）で63.9%、全くしないと回答した生徒の平均正答率が54.8%となっている。

《学習意欲と学力》

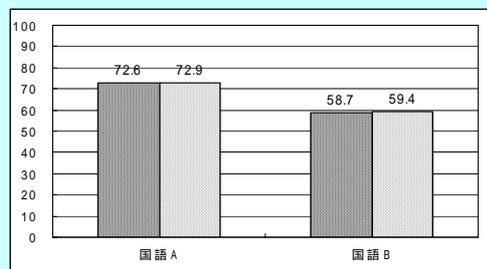
児童生徒が熱意をもって勉強していると思っている学校の方が、平均正答率が高く、学習意欲と学力の関係は、昨年度と同様の傾向が見られる。

〔例〕質問11：生徒は熱意をもって勉強している

そのとおりだと思うと回答した学校の生徒の平均正答率がA（知識）で65.0%、そう思わないと回答した学校の生徒の平均正答率が41.5%となっている。

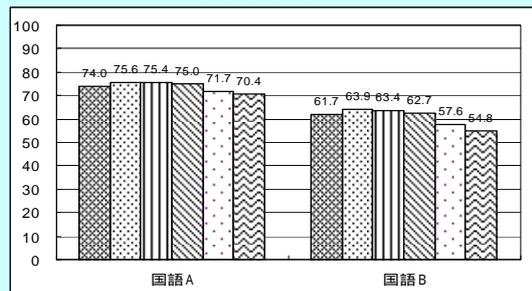
設けている 設けていない

【中学校】



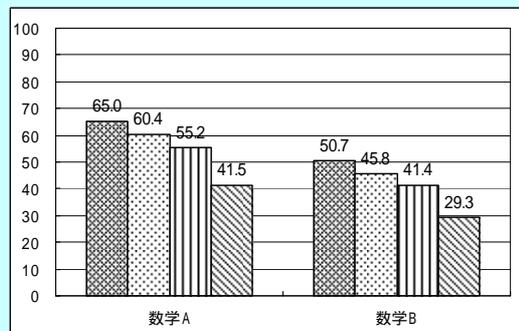
2時間以上 1時間以上、2時間より少ない
30分以上、1時間より少ない 10分以上、30分より少ない
10分より少ない 全くしない

【中学校】



そのとおりだと思う どちらかといえばそう思う
どちらかといえばそう思わない そう思わない

【中学校】



「家庭学習の課題（宿題）を与えている」という項目と、平均正答率については、強い相関が見られないものの、家で宿題をしている児童生徒の方が、平均正答率が高い傾向が見られる。

〔例〕学校質問紙 質問76：「家庭学習の課題（宿題）を与えている」において、よく行ったと回答した学校の生徒の平均正答率がA(知識)で73.6%、全く行っていないと回答した学校の生徒の平均正答率が71.2%となっているが、

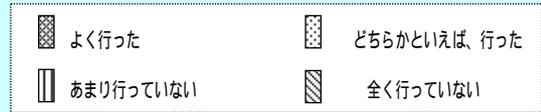
〔例〕生徒質問紙 質問26：「家で学校の宿題をしていますか」において、していると回答した生徒の平均正答率がA(知識)で76.5%、全くしていないと回答した生徒の平均正答率が62.3%となっている。

《指導方法・指導体制と学力》

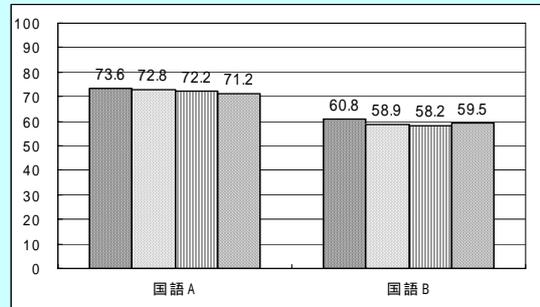
発展的な学習を行っている学校の方が、平均正答率がやや高く、個に応じた指導の充実と学力の関係は、昨年度と同様の傾向が見られる。

〔例〕質問58：発展的な学習の指導を行っている

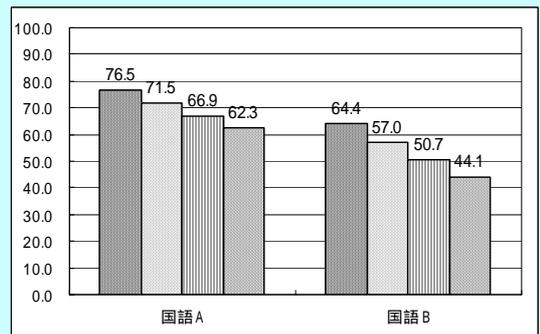
よく行ったと回答した学校の生徒の平均正答率がB(活用)で50.0%、全く行っていないと回答した学校の生徒の平均正答率が46.0%となっている。



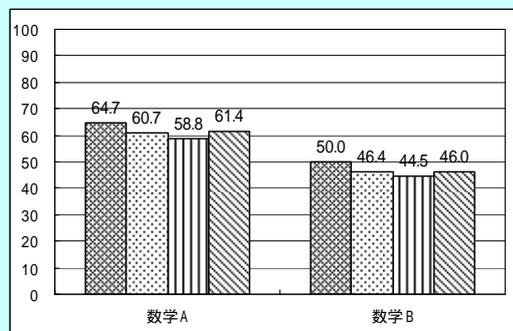
【中学校】



【中学校】



【中学校】



「実生活における事象との関連を図った授業」という項目と平均正答率については、強い相関が見られないものの、算数・数学で学習したことを生活の中で活用できないかと考える児童生徒の方が、平均正答率が高い傾向が見られる。

〔例〕学校質問紙 質問60：「実生活における授業との関連を図った指導を行っている」において、よく行ったと回答した学校の児童の平均正答率がA（知識）で67.6%、全く行っていないと回答した学校の児童の平均正答率が64.6%となっているが、
 〔例〕児童質問紙 質問66：「算数で学習したことを生活の中で活用できないかと考える」において、当てはまると回答した児童の平均正答率が、A（知識）で71.5%、当てはまらないと回答した児童の平均正答率が57.1%となっている。

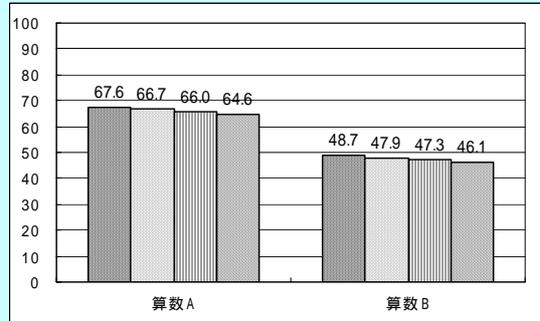
《豊かな心と学力》

児童生徒が礼儀正しいと思っている学校の方が、平均正答率が高く、豊かな心と学力の関係は、昨年度と同様の傾向が見られる。

〔例〕質問13：児童は礼儀正しい
 そのとおりだと思うと回答した学校の児童の平均正答率がB（活用）で49.3%、そう思わないと回答した学校の児童の平均正答率が36.5%となっている。

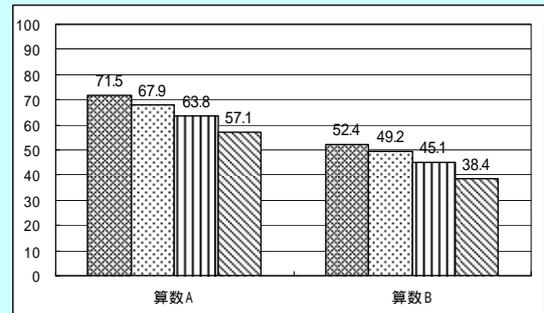
よく行った どちらかといえば、行った
 あまり行っていない 全く行っていない

【小学校】



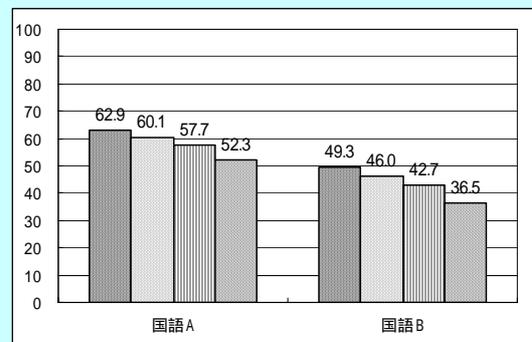
当てはまる どちらかといえば、当てはまる
 どちらかといえば、当てはまらない 当てはまらない

【小学校】



そのとおりだと思う どちらかといえばそう思う
 どちらかといえばそう思わない そう思わない

【小学校】



2 「北海道学校改善支援プラン」を支える3つの柱の検証

平成19年度全国学力・学習状況調査の調査結果を踏まえて北海道検証改善委員会が作成した「北海道学校改善支援プラン」には、北海道の児童生徒の学習状況等の課題を踏まえて、本プランを支える3つの柱が設定されています。

各市町村教育委員会や各学校は、これらを踏まえて、独自の学校改善プランに基づく取組を展開しているところです。

本報告書では、平成20年度全国学力・学習状況調査の調査結果を踏まえ、この3つの柱について、本道の実態を明らかにした上で、今後重点的に取り組むべき内容について提言を行っています。

「北海道学校改善支援プラン」で設定した「本プランを支える3つの柱」

① 〔主体的に学び、学ぶ意義や価値を理解する〕

～自分の身に付けた力を確かめようとする意欲や態度、学習習慣を身に付けさせる～

児童生徒が日常生活の中で、学習時間を増やすなど学習に取り組む機会や場を豊かにし、進んで学習できるようにする。また、家庭において、計画的に予習や復習が行える環境を工夫することなどを通して、学習したことが身に付いたかを振り返ったり学習したことを更に深めたりするとともに、学習したことを自ら活用しようとする態度を身に付けることができるようにする。

② 〔基礎・基本を確実に習得する〕

～新たに分かったことや使うことができるようになった知識・技能を

剥落しないよう確実に身に付けさせる～

「読み・書き・計算」など、以降の学習を進める上で必要な力はもとより、学習活動の中で学んだ内容について十分に定着させ、活用することができるよう、これまで以上に繰り返し指導の実施、教材の工夫改善、学習の増進、更には児童生徒による授業評価を導入したりするなど、児童生徒の側に立った指導の工夫改善を図るようにする。

③ 〔日常生活を充実する〕

～学校、家庭、地域との間に「確かな学力」について十分な共通理解を図り、

児童生徒の学力や学習状況を共有し、それぞれの機能を十分に発揮させる～

児童生徒の学力・学習状況について理解を深め、課題となっている点を把握し、児童生徒に身に付けさせたい「学力」等や学校等が取り組もうとする方策について共通理解を図り、児童生徒の学力向上をはじめ日常生活の充実につながるよう、それぞれの役割を十分に発揮できるようにする。

平成20年度
全国学力・学習状況調査の
調査結果による

分析、傾向と考察

道教委から
新たな提言を
行います

柱 1

主体的に学び、学ぶ意義や価値を理解する
 ~自分の身に付けた力を確かめようとする意欲や態度、学習習慣を身に付けさせる~

柱1にかかわっては、児童生徒が日常生活の中で、学習時間を増やすなど学習に取り組む機会や場を豊かにし、進んで学習できるようにする取組を充実する必要があります。特に、日ごろから熱意をもって学習に取り組んだり、学校以外においても、自ら学習するなど、学習習慣を確立したりする取組を工夫することが重要です。

【提言1】

学ぶ楽しさを実感させる

【提言2】

授業以外の学習の
 機会や時間を確保する

普段(月～金曜日)の1日当たりの勉強時間の違いから見た平均正答率

(詳細:小学校、中学校 本編P129 参照)

調査結果

% ()内はH19

【小学校】	国語A	算数A	国語B	算数B
a 2~3時間	65.8(82.8)	72.1(81.6)	51.1(63.0)	51.2(62.9)
b 全くしない	49.6(72.2)	55.7(66.8)	35.6(46.0)	39.1(49.3)
a-b	16.2(10.6)	16.4(14.8)	15.5(17.0)	12.1(13.6)
【中学校】	国語A	数学A	国語B	数学B
a 3時間以上	75.7(83.5)	69.7(77.9)	62.6(73.9)	51.3(63.2)
b 全くしない	66.6(74.5)	46.7(54.8)	50.0(59.6)	35.6(46.3)
a-b	9.1(9.0)	23.0(23.1)	12.6(14.3)	15.7(16.9)

【参考】

家で学校の宿題をしているかどうかの違いから見た平均正答率においても、家で学校の宿題を行っている児童生徒と全くしていない児童生徒の平均正答率の差がやや大きい傾向にあります。
 (詳細;本編 P131 参照)

傾向と考察

学校の授業以外で勉強する1日当たりの勉強時間から見ると、昨年同様、長く勉強する児童生徒の方が平均正答率が高い傾向が見られる。例えば、小学校では、算数Aで昨年度と比べて長く勉強する児童と全くしない児童の平均正答率の差が大きい傾向が見られ、中学校においても数学Aにおいて同様の傾向が見られる。

学校の授業以外での勉強時間を確保し、学習状況が異なることがないようにする必要がある。

国語や算数・数学の勉強は大切だと思うかどうかの違いから見た平均正答率

(詳細:国語 本編P140、算数・数学 本編P141 参照)

調査結果

% ()内はH19

【小学校】	国語A	算数A	国語B	算数B
a そう思う	64.0(81.7)	69.6(79.5)	50.1(61.0)	50.6(61.4)
b そう思わない	44.0(65.0)	47.7(56.8)	26.9(37.0)	29.7(40.0)
a-b	20.0(16.7)	21.9(22.7)	23.2(24.0)	20.9(21.4)
【中学校】	国語A	数学A	国語B	数学B
a そう思う	75.0(82.2)	65.8(72.8)	62.3(72.6)	50.4(61.2)
b そう思わない	62.7(71.4)	44.9(54.4)	45.3(53.8)	32.4(42.9)
a-b	12.3(10.8)	20.9(18.4)	17.0(18.8)	18.0(18.3)

【参考】

国語や算数・数学の勉強が好きだと回答した児童生徒の内、学校以外で勉強を2~3時間行っている児童生徒は、勉強を全くしない児童生徒よりも平均正答率が高い傾向にあります。
 (詳細;本編 P129 参照)

傾向と考察

児童生徒が学校で勉強している内容が大切であると思っているかの回答から見ると、昨年同様、大切であると思っている児童生徒の方が平均正答率が高い傾向が見られる。例えば、小学校では、国語Bで昨年度と比べて、国語の勉強が大切だと思っている児童の平均正答率は、そう思っていない児童の平均正答率よりも高い傾向が見られ、中学校においても同様の傾向が見られる。

学校で勉強する内容が大切であることを実感させ、自ら学ぼうとする態度を育てる必要がある。

【提言1】 学ぶ楽しさを実感させる

具体方策

児童生徒が、学びの意義や価値を理解することができる学級の雰囲気づくりや集団づくりなど、学級経営の充実に努めます。

本編P289「道教委作成資料1」参照

学習の目標を明らかにし、自己の学習状況に応じた学習内容を紹介し、学習を振り返ったり、新しい問題に挑戦するなど、児童生徒が学習の見通しを立てることができる学習活動を位置付けます。

概要版P15「事例1」参照

毎朝の短い時間で、問題集や小テストに取り組んだり、朝読書に取り組みます。

本編P19「事例2」参照

ある一定期間の放課後に、「自学進め方講座」等を実施して、学び方を身に付け、主体的に学んだ成果を実感できるようにします。

授業の学習内容と朝や放課後の学習内容の関連を図り、継続して学習を進め、予習や復習の大切さを実感できるようにします。

【提言2】 授業以外の学習の機会や時間を確保する

具体方策

自主的な学習態度を身に付けるために、学級活動で家庭学習について考える時間を確保します。

本編P289「道教委作成資料1」参照

授業における学習内容の定着を図り、自らの学習状況に応じて学習内容を選択して取り組むとともに、家庭学習の習慣化を促す学習相談を行います。

概要版P16「事例3」参照

授業で学習した内容にかかわる課題を与え、家庭学習で取り組めるようにし、児童生徒が自分の知識・技能の定着の状況を把握できるようにします。

家庭学習で定着した知識・技能を活用して新たな課題を解決する経験を重ねるようにします。

本編P289「道教委作成資料1」参照

家庭学習の状況等を記録する「家庭学習シート」を活用して、児童生徒が自らの取組を把握し、学習の状況を把握します。

本編P21「事例4」参照

実践提案
<提言1から>

■学ぶ楽しさを実感させる■

【事例1～学習の目標を明らかにし、見通しを立てることができる学習活動を位置付けます。】

空知管内由仁町立三川中学校（中規模）

単元のはじめの時間に、「学習CM」として、学習の目標や内容を伝え、生徒一人一人が、自分の学習の見通しをもつことができるようにします。

【指導計画】

時	学習内容
1	□オリエンテーション ・目標の理解 ・学習計画作り
2	□方程式とその解
3	□等式の性質

数学科 学習CM
 第1学年～第3章 方程式～ (教科書P72～93)

学習の目標

- ★ 方程式とその解の意味を理解することができる。
- ★ 等式の性質を理解し、等式の性質を使って方程式を解ける。
- ★ 移項の考えなどを使って、いろいろな問題を解決することができる。

学習の内容

節	学習内容	曜日	到達目標	自己評価
1 方程式とその解き方	1 方程式とその解	1	・方程式の意味を知る。 ・方程式の解、解くこと	生徒が自らの学習を振り返り、自分の学習状況に応じた問題を選び、見通しを立てて取り組むことができるようにしています。
	2 等式の性質	1	・等式の性質を調べる。 ・等式の性質を使って方	
	3 方程式の解き方	3	⑥ ⑦ ⑧ ・等式の性質を使って方 ・移項の意味を知り、そ	
	4 いろいろな方程式の解き方	3	⑨ ⑩ ・()のある方程式を解く。 ・小数係数をもつ方程式を解く。 ・分数係数をもつ方程式を解く。 ・1次方程式の意味を知り、その解き方をまとめる。	
章の問題			・3章のまとめと復習(提出)	

章のまとめの問題例を示し、学習した後、どのような力が身に付いていけばよいのかを明らかにしています。

<問> テストで、Aさんは、 x 点、Bさんは64点だったので、平均点は60点になった。等式で表しなさい。また、Aさんの点数を求めなさい。

<評価方法>

関心・意欲・態度	数学的な考え方	表現・処理	知識・理解
授業態度(観察) 発表、発言 定期テスト	授業観察 定期テスト 豆テスト⑪	豆テスト⑧ 豆テスト⑨ 豆テスト⑩ 定期テスト	定期テスト 豆テスト⑥ 豆テスト⑦

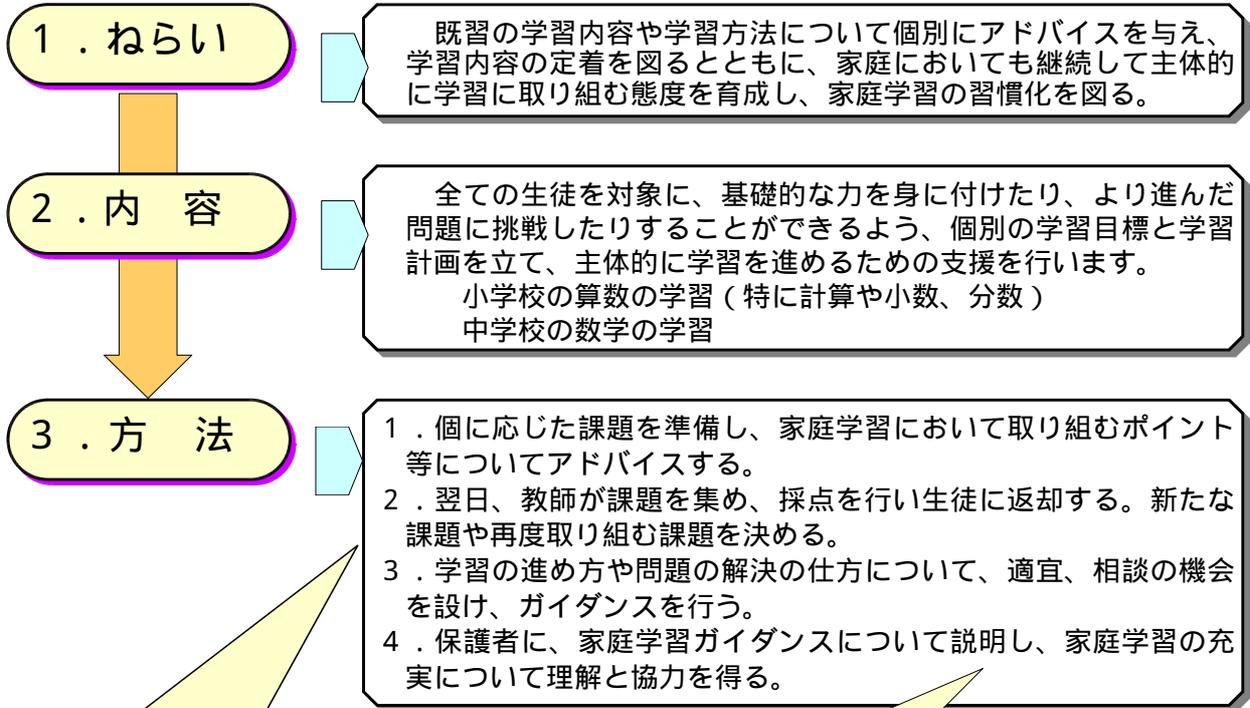
◆◆ 取組の特徴 ◆◆

本実践は、生徒が、自分なりの学習の見通しを立てることができるよう、学習の目標や内容や学習の流れ等を紹介する工夫をしています。また、まとめの問題例や評価の方法を明らかにして、どのような力が身に付くとよいのかをわかりやすく示しています。

【事例3～学習内容の定着を図り、家庭学習の習慣化を促す学習ガイダンスを行います。】

「家庭学習ガイダンス」の取組

十勝管内幕別町立札内中学校（中規模）



生徒が自らの学習状況に応じて学習に取り組めるよう、課題を準備します。

ミニテスト 四則 - 3
 $92 + 18 \times 6 =$

ミニテスト 文章問題 - 7
1月は31日まであります。これは、何週間と何日ですか。

式

仕上げの問題A

100から200までの整数の中で、4でわると2あまり、7で割ると5あまる整数全てを求めましょう。

式 答 _____

毎分5の割合で、水のわき出る井戸があります。今、毎分25くみ上げるポンプを使って水をくみ出すと10分で水がなくなります。毎分30くみ上げるポンプを使うと、何分で水がなくなりますか。

式 答 _____

保護者の理解を求めます。

保護者 各位
家庭学習ガイダンスのご案内

学校では、全ての生徒に確かな学力を身に付けるために、授業の工夫改善に努力しておりますが、確かな学力を身に付けさせるためには、授業と家庭学習の両方の充実が欠かせません。

本校では、家庭学習の習慣を確立するとともに、算数・数学の基礎を習得させるために、希望者を対象に「家庭学習ガイダンス」を次のように開催いたします。ぜひ、御活用ください。

記

- 1 ねらい 学習内容の定着及び家庭学習の習慣の確立を図る。
- 2 日 時 月～金の放課後 部活動開始前20～30分
- 3 場 所 会議室
- 4 内 容 学習の進め方、学習方法についての相談 など

取組の特徴

本実践は、個に応じた学習を展開し、生徒一人一人が自らの学習状況や理解の程度を把握し、主体的に学習を進めることができるよう工夫しています。また、家庭に、学習の進め方等について紹介し、保護者の理解を求め、生徒が自信をもって学習に取り組むことができる工夫をしています。

柱 2

基礎・基本を確実に習得する

～新たに分かったことや使うことができるようになった知識・技能を剥落しないよう確実に身に付けさせる～

柱2にかかわっては、児童生徒が知識・技能を確実に身に付けたり、身に付けた知識等を確かめたりすることができるよう学習活動や指導計画などの工夫を図っていく必要があります。特に、一人一人の学習状況を的確に捉えて、繰り返し指導を行ったり、発展的な学習を取り入れたりすることが重要です。

【提言1】

子どものつまずきを
フォローする

【提言2】

学習と日常生活の
つながりを意識する

国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしているかどうかの違いから見た平均正答率(詳細:本編P138 参照)

調査結果

	% ()内はH19			
【小学校】	国語A	算数A	国語B	算数B
a 当てはまる	68.1	71.9	54.4	53.8
b 当てはまらない	47.8	56.0	31.9	36.3
a - b	20.3	15.9	22.5	17.5
【中学校】	国語A	数学A	国語B	数学B
a 当てはまる	77.6	66.3	66.7	52.1
b 当てはまらない	66.6	52.4	49.6	37.7
a - b	11.0	13.9	17.1	14.4

【参考】

算数(数学)の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えるかどうかの違いから見た平均正答率においても、考える児童生徒と考えない児童生徒の平均正答率の差が大きい傾向にあります。(詳細;本編P138参照)

傾向と考察

国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしているかどうかの違いから見ると、当てはまると回答した児童生徒の方が平均正答率が高い傾向が見られる。例えば、小学校においては、当てはまると回答した児童と、当てはまらないと回答した児童の平均正答率がすべての教科において15ポイント以上の差があるなどの違いが見られる。

目的に応じて資料を読んだり、自分の考えを表す学習活動を行うなど、学習状況に応じた指導の工夫を図る必要がある。

児童生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導しているかどうかの違いから見た平均正答率(詳細:本編P154 参照)

調査結果

	% ()内はH19			
【小学校】	国語A	算数A	国語B	算数B
a よく行った	62.3	68.3	48.0	49.4
b あまり行っていない	57.8	64.0	44.0	46.0
a - b	4.5	4.3	4.0	3.4
【中学校】	国語A	数学A	国語B	数学B
a よく行った	73.3	61.8	60.0	47.8
b あまり行っていない	71.5	57.1	57.1	42.4
a - b	1.8	4.7	2.9	5.4

【参考】

国語の授業で学習したことは、将来社会に出たときに役に立つかどうかの違いから見た平均正答率においても、役に立つと思う児童生徒と思わない児童生徒の平均正答率の差が大きい傾向にあります。(詳細;本編P140参照)

傾向と考察

児童生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をよく行っている学校は、全く行っていない学校に比べて平均正答率が高い傾向が見られる。例えば、小学校では算数のA問題(知識)で、中学校では数学のA問題とB問題(活用)に差が表れている。

学ぶ楽しさや考える大切さなどを実感できる発問や学習活動の工夫を図る必要がある。

【提言1】 子どものつまずきをフォローする

具体方策

つまずきやすい内容を重点的に指導したり、繰り返して学習する内容を指導計画に効果的に位置付けます。

本編P290「道教委作成資料2」参照

学習状況に応じ、個別指導やグループ別指導などきめ細かな指導を行い、個に応じた指導の充実を図ります。

概要版P19「事例5」参照

単元の終わりなどで、児童生徒の自己評価を位置付け、繰り返し指導や時間をかけて学習した内容が定着しているか、児童生徒自身が把握します。

本編P290「道教委作成資料2」参照

学習状況や児童生徒の実態などに応じた評価問題を活用し、児童生徒が身に付けた知識や技能等や定着に課題が見られる学習内容を把握します。

学力調査のA問題を分析し、学習した知識・技能等が確実に身に付けることができる学習指導の工夫を行います。

本編P25「事例6」参照

【提言2】 学習と日常生活のつながりを意識する

具体方策

児童生徒がこれまで身に付けた学習内容を確認し、今後の学習のどの部分で活用することができるかを考え、自分だけの学習計画を立てて取り組みます。

本編P291「道教委作成資料3」参照

児童生徒がこれまで身に付けた知識・技能等を活用して課題の解決の方策を考えることができる体験活動を位置付けます。

実生活における事象との関連を図ったり、身近な素材を用いて学習を展開したりして、児童生徒が自分が身に付けた知識・技能を積極的に活用することができるようにします。

概要版P20「事例7」参照

児童生徒の興味・関心を生かした学習指導を展開し、児童生徒が自分が身に付けた知識・技能を積極的に活用することができるようにします。

本編27「事例8」参照

学力調査のB問題を分析し、身に付けた知識・技能を活用して課題を解決するよさを実感するなど、知識・技能を具体的に活用するイメージをもつことができる学習指導の工夫を図ります。

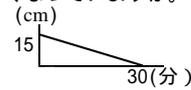
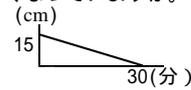
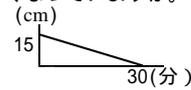
実践提案 < 提言1から >

子どものつまずきをフォローする

【事例5～学習状況に応じ、個別指導やグループ別指導など、個に応じた指導の充実を図ります。】

本校では、「学校改善プラン」の「計画」「実施」を基に、個に応じた指導をとおして基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るとともに、学習意欲を高め、主体的に課題解決に取り組む指導過程や指導方法の工夫に努めている。

釧路管内釧路町立別保中学校（中規模）

中学校 学校改善プラン		第2学年 数学の実践例 「1次関数」					
検証 改善	組	毎時間、授業の初めに、復習プリントに取り組み、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図ります。	実態を踏まえ、個に応じた指導を行えるよう、TTによる指導を行うとともに、生徒が問題を選択できるようにしています。				
	改善	複数の問題を提示し、生徒に問題を選択させることにより、学習意欲を高めています。	【本時の目標】 いろいろな事象の中の2つの数量の変化や対応を捉え、1次関数を用いて問題を解くことができる。				
計画	改善策を明確にする。	【改善策】 ・生徒一人一人の特性を十分理解し、個に応じた指導を行うよう指導方法の工夫改善を図る。 ・各種検査の結果も考察し、生徒理解を深める。 ・道徳、特別活動における指導の工夫改善を図る。 ・家庭学習の習慣化を一層図るための連携を強化する。	【本時の展開（10/10）】 生徒の学習活動・教師の働きかけ				
	実施	学習内容を確実に習得させる授業を工夫する。 ・個別指導やグループ別指導等の学習形態を効果的に取り入れた指導計画の工夫 ・習熟度別指導の充実 ・評価活動の充実 自主自律を目指す行事等の工夫を図る。 ・学級活動や生徒会活動などにおいて、自主的・創造的な活動を促進し、生徒自身の意欲化を図る。 家庭学習の充実を図る。	【本時の展開（10/10）】 生徒の学習活動・教師の働きかけ				
検証	見通す	交流の視点に基づいた少人数による話し合いをとおして、習得と活用の基盤となる言語活動の充実に努めます。	<table border="1"> <tr> <td>問題1 1辺が3cmのタイルを次のように積み上げていく。段数が増えると変わる数量を探し、6段の時の値を求めよう。</td> <td>問題2 1分間に、5%の水をくみ出せる電動ポンプを使って30%の水が入った水槽から水をくみ出す時、3分30秒で何%くみ出せるか求めよう。</td> </tr> <tr> <td>問題3 気温は、地表から約1万mまでは、千分1が高くなることに約6度ずつ下がります。Aさんは、奥穂高岳（標高3190m）のふもとにある気温16度の上高地（1500m）にいます。奥穂高岳の気温は何度と予想されますか。</td> <td>問題4 下のグラフは、線香に火を付けてからの時間x分と長さycmの関係を調べた結果です。この線香は1分間に何cm短くなっていますか。（cm） </td> </tr> </table>	問題1 1辺が3cmのタイルを次のように積み上げていく。段数が増えると変わる数量を探し、6段の時の値を求めよう。	問題2 1分間に、5%の水をくみ出せる電動ポンプを使って30%の水が入った水槽から水をくみ出す時、3分30秒で何%くみ出せるか求めよう。	問題3 気温は、地表から約1万mまでは、千分1が高くなることに約6度ずつ下がります。Aさんは、奥穂高岳（標高3190m）のふもとにある気温16度の上高地（1500m）にいます。奥穂高岳の気温は何度と予想されますか。	問題4 下のグラフは、線香に火を付けてからの時間x分と長さycmの関係を調べた結果です。この線香は1分間に何cm短くなっていますか。（cm） 
	問題1 1辺が3cmのタイルを次のように積み上げていく。段数が増えると変わる数量を探し、6段の時の値を求めよう。	問題2 1分間に、5%の水をくみ出せる電動ポンプを使って30%の水が入った水槽から水をくみ出す時、3分30秒で何%くみ出せるか求めよう。					
問題3 気温は、地表から約1万mまでは、千分1が高くなることに約6度ずつ下がります。Aさんは、奥穂高岳（標高3190m）のふもとにある気温16度の上高地（1500m）にいます。奥穂高岳の気温は何度と予想されますか。	問題4 下のグラフは、線香に火を付けてからの時間x分と長さycmの関係を調べた結果です。この線香は1分間に何cm短くなっていますか。（cm） 						
振り返る		【発表者】 事象のどの数量に着目したか。問題を解くために、何を聞いたか。解答の過程を説明し、発表する。 【聞く人】 自分との相違を考えながら聞く。	<p>【本時の振り返り】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自力解決に取り組む。考え方を交流する。 同じ問題を選択した者同士が集まり、考え方を交流する。 交流したことを発表する。 問題ごとに、解決方法を紹介する。 本時を振り返る。 生徒が自己評価を行う。 <p>【留意点と評価】</p> <p>T2：Aさんへの個別指導を行う。</p> <p>T1：全体を見ながら個別指導を行う。</p> <p>T2：AさんとBさんに対し、問題2を用いて一次関数の理解を深める個別指導を行う。</p> <p>【具体的評価規準】 事象の中の数量の変化や対応を式や表、グラフに表して問題を考える。（ノート）</p> <p>努力を要すると判断された場合、表作成用紙をわたし、事象に見られる2つの数量を表にあらわすようにする。</p>				

取組の特徴

本実践は、自校の学校改善プランに基づいて、生徒の学力の向上に結びつくよう授業改善を進める工夫をしています。また、一人一人の生徒にきめ細かな指導を行うため、学習状況に応じて学習形態を変え、効果的な指導を行う工夫をしています。

実践提案
 < 提言2から >

学習と日常生活のつながりを意識する

【事例7～実生活における事象との関連を図り、身近な素材を用いた学習を展開します。】

< 学習意欲の向上を図る指導計画の工夫 >
 単元の指導計画において、単元全体を通した課題を設定したり、単元を振り返る時間を意図的に設定したりすることによって、児童一人一人がめあてや見通しをもって主体的に学習することができるようにしています。

釧路管内鶴居村立幌呂小学校(小規模)

第4学年(特別支援学級) 算数科「たし算のひっ算」全4時間 1人

目標	時間	主な学習活動	支援	評価
・社会科見学の買い物体験に回けて、買い物ゲームをする。	1	学習課題をつかむ。 社会見学で、自分一人で買い物をしよう。 手持ちの金額を当日と同じ、300円に設定し、買えるだけ買う活動を繰り返し行う。	チェック表を活用し、残金を意識させる。	
・答えが10を超えるたし算ができる。	1	数の大小を比較する。(1から10) ・10の補数を考える。 ・2つの数の合計を出す。	【知識・理解】 補数を考え、答えが10を超えるたし算ができる。	

子供一人一人の学習意欲を持続するため、学習課題を設定するとともに、算数科の指導計画を見直し、社会科(実体験)との関連を図っている。

社会見学の実施...実体験
 学習課題をつかむ。
 ひっ算を使って「買い物ゲーム」をし。
 ひっ算の書き表し方を身に付ける。
 ・トランプを使って、10を超える足し算の計算方法をゲーム感覚で学習する。

教師は、子どもの変容から、指導計画の重要性を再認識し、各教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動との関連を明確にするなど、指導計画の改善・充実に努めるようになった。

第5学年 総合的な学習の時間「ボランティア新聞を作ろう」全20時間 5人

学習段階	時間	主な学習活動
課題の設定	2	講師の話をもとに、自分の課題と単元全体の計画を立て、見通しをもつとともに、自分の追究方法を考える。
課題の追究	6	自分のテーマについて、体験を通して、研究していく。 ・点字や手話で話す。 ・施設を訪問する。 ・お年寄りから昔の遊びを教えてもらう。等
課題の発展	2	これまでの追究活動を交流し、新聞作りの見通しをもつとともに、新聞作りの方法を知る。
	7	体験してわかったことや感じたこと、考えたことなどを振り返り、新聞にまとめる。
学習の振り返り	2	完成した新聞を発表し、お互いに感想を交流する。
	1	単元の学習全体を振り返り、これからの生活や次の単元の学習に生かすことを考える。

単元の導入に、学習の見通しをもたせ、単元の最後に、子ども一人一人が単元の学習内容や学習方法を振り返るなどして、自分の育ちを実感できるようにしている。

取組の特徴

本実践は、児童が主体的に学習に取り組むことができるよう、実生活における事象を取り上げ、児童が身に付けた学習内容を最大限に活用する工夫をしています。また、児童が自らの学びの成果を継続させることができるような工夫をしています。

柱 3

日常生活を充実する

～学校、家庭、地域との間に「確かな学力」について十分な共通理解を図り、児童生徒の学力や学習状況を共有し、それぞれの機能を十分に発揮させる～

柱3にかかわっては、児童生徒が日常生活の様々な活動がよりよいものとなるよう、学校、家庭地域がそれぞれの機能を十分に発揮し、一体となった教育を一層推進する必要があります。特に、保護者や地域住民と共に児童生徒の生活習慣を定着させたり、地域を学習の場として活動を展開したりする取組を工夫することが重要です。

【提言1】

生活のリズムを整える

【提言2】

地域住民の力を学習に生かす

朝食を毎日食べているかどうかの違いから見た平均正答率(詳細:本編P120 参照)

調査結果

% ()内はH19

【小学校】	国語A	算数A	国語B	算数B
a 毎日食べる	62.4(80.6)	68.3(78.4)	48.2(60.0)	49.3(60.7)
b 全く食べない	42.8(67.2)	50.7(60.5)	28.6(40.0)	33.0(44.3)
a-b	19.6(13.4)	17.6(17.9)	19.6(20.0)	16.3(16.4)
【中学校】	国語A	数学A	国語B	数学B
a 毎日食べる	74.4(81.9)	63.5(71.8)	61.4(72.0)	48.7(60.4)
b 全く食べない	61.9(71.4)	41.5(50.5)	43.9(54.0)	30.0(40.2)
a-b	12.5(10.5)	22.0(21.3)	17.5(18.0)	18.7(20.2)

【参考】

学校に持っていくものを事前に確かめたり、同じくらの時刻に就寝したりしているかどうかの違いから見た平均正答率においても、毎日している児童生徒と全くしていない児童生徒の平均正答率の差が大きい傾向にあります。(詳細;本編P120参照)

傾向と考察

朝食を毎日食べているかどうかの違いから見ると、昨年同様、毎日食べている児童生徒の方が平均正答率が高い傾向が見られる。例えば、小学校においては、毎日食べている児童と、全く食べていない児童の平均正答率がすべての教科においても15ポイント以上の差があるなどの違いが見られる。

毎日、朝食を食べる、決まった時刻に就寝するなど、生活リズムを整える必要がある。

今住んでいる地域の行事に参加しているかどうかの違いから見た平均正答率(詳細:本編P143 参照)

調査結果

% ()内はH19

【小学校】	国語A	算数A	国語B	算数B
a 当てはまる	62.2	67.7	48.0	48.9
b 当てはまらない	54.8	61.6	40.1	42.2
a-b	7.4	6.1	7.9	6.7
【中学校】	国語A	数学A	国語B	数学B
a 当てはまる	72.7	60.0	59.2	45.7
b 当てはまらない	70.5	57.0	55.3	42.4
a-b	2.2	3.0	3.9	3.3

【参考】

海、山、湖、川などに行ったり自然のすばらしさを感じたりしているかどうかの違いから見た平均正答率においても、何度もしている児童生徒と全くしていない児童生徒の平均正答率の差がやや大きい傾向にあります。(詳細;本編P145参照)

傾向と考察

今住んでいる地域の行事に参加しているかどうかの状況から見ると、小学校では、参加している児童の方がすべての教科において平均正答率が高く、中学校では、数学A、国語B、数学Bにおいてやや高い傾向が見られる。

社会体験や自然体験等を通して、そのよさが実感できるようにする必要がある。

【提言1】 生活のリズムを整える

具体方策

教育活動の中で、物や時間を大切にすることについて、児童生徒自身が自覚することができる指導を行います。

1日や1週間の学習の内容や量を振り返ることができるよう、帰りの会などで生活記録する機会を位置付けます。
本編P292「道教委作成資料4」参照

学校便り等で家庭学習の意義の重要性を説明するとともに、家庭学習の内容や時間などの目安を示します。
概要版P23「事例9」参照

「早寝早起き朝ごはん」を家族みんなで取り組んだり、家庭で、テレビをつけずに家族で会話する時間や読書の時間を確保したり、家庭生活について、「我が家の決まり」などを設けたりします。

「おはよう」「ただいま」など、生活の節目として大切なあいさつを家族みんなで実践したり、その大切さについて実感したり、話し合ったりします。

【提言2】 地域住民の力を学習に生かす

具体方策

退職教員等をボランティアとして活用し、放課後や休日を活かした学習の支援をします。
概要版P24「事例10」参照

公民館や公立図書館等において、学習内容や家庭学習の進め方等についての学習相談を行います。
本編P293「道教委作成資料5」参照

学生や地域住民を外部講師とする学習活動の支援や児童生徒の安全を守るボランティア活動を進めます。
本編P32「事例11」参照

学校行事と町内会事業の関連を図り、地域の教育力を活用した効果的な体験活動を展開するようにします。

児童生徒が身近に活用することができる地域素材の教材を作成するためのワーキンググループを立ち上げ、校区内における体験活動の充実を図ります。

【事例9～学校便り等で家庭学習の意義や内容や時間などの目安を示します。】

家庭との連携を図った生活習慣・学習習慣の改善

上川管内旭川市立朝日小学校(中規模)

学級だより

スケッチブック [sKetchbook]

～40人が描く、世界にたった一つのアート～ NO,8



宿題と家庭学習について

先週から、毎日宿題を出しています。宿題は提出していただき、忘れることのないよう、ご協力とご理解をお願いします。

本小学校では、宿題と家庭学習の2本の柱で学力の定着を図っていくことにしています。ここでその2つの違いについて少し説明させていただきます。

《宿題》

目的は、次の二つです。

宿題を家庭で行うことによって、毎日学習の振り返りができ、学校から出される宿題なので、学習したことの定着を図ることにつながる。

上記のような目的から、学校から毎日宿題を出し、提出は絶対です。提出された宿題は返却することとします。

学校での学習と家庭学習の関連性や目的をしっかりと説明し、保護者等の理解を得よう努めます。

《家庭学習》

目的は、次の二つです。

自分の力で学習することを見つけ、自分で学習を展開できるようにする。(自学の力を育てる) 教科の枠にとらわれず、自分のやりたいこと(計算や漢字、日記、調査など)に取り組め、学びへの興味・関心を高めることにつながる。

家庭学習は、宿題の発展型ととらえてもよいと思います。宿題では足りない部分を補ったり、もっと詳しく学んでみたいことに取り組んだりするのが家庭学習だと考えています。

家庭学習については、無理強いするものではありませんが、出来るだけ取り組んでいただきたいと考えています。

先週「ノートは2冊用意してください。」とお願いしましたが、これは、ノートを提出してもらっても、その日のうちに返却することが出来ないからです。1冊目を提出し、2冊目のノートは、前日提出した2冊のノートを交互に使用します。

学校として家庭学習にかかる時間や学習内容及び目標とすることを明記し、学校と保護者等が共通理解を図って、生徒の育成に努めます。

月日 《算数》 計算をしよう! 42 682 x48 x52	月日 《日記》 《はなぜ?》(自由研究)
式	答え

学校全体としての共通理解			
	低学年	中学年	高学年
家庭学習	10分～20分	30分～40分	50分～90分
宿題時間	5分～10分程度	5分～10分程度	5分～10分程度
宿題の内容	家庭学習の習慣化が目的なので、机に向かうきっかけとなる短時間で終わらせる内容で、点検を確実にできるように各担任が工夫する。毎日の継続を重視する。		
家庭学習到達目標	時間割をそろえる筆入れの準備 家庭で机に向かう習慣の確立	時間割の準備に加え漢字の書き取りを中心とした復習を重視、予習は教科書の首読程度	時間割の準備に加え、予習・授業・復習の形の基礎を養う。特に算数を重視する。

取組の特徴
本実践は、学校と保護者が共通理解を図り、足並みを揃えて児童の学習を支えるよう工夫しています。また、家庭学習の具体的な例を明記し、保護者の協力と理解を得るように工夫しています。

【事例 10 ~ 退職教員をボランティア等として活用し、放課後や休日を活用した学習の支援をします。】

小・中学校 学力STEP (ステップ) アッププロジェクト
 E (Echo) プロジェクトの実践から

石狩管内江別市

取組概要

主体的に学ぶ意識を高め、学習習慣を確立するため、放課後や土曜日、長期休業中における地域の人材（退職教員、ボランティア等）を活用した学習支援の機会の充実に努めた。

取組の実際

- ・放課後や土曜日、長期休業中に一人一人の課題に応じた学習に取り組む機会を設け、地域人材の活用による学習支援を行うことにより、生徒の学習意欲を高めるとともに、望ましい学習習慣を確立することをねらいとして実施した。
- ・対象生徒を中学校第1学年及び第2学年の希望者として実施し、しっかり学習したい、予習をしてさらに理解を深めたい、家庭それぞれの課題等に応じた学習支援を行った。

退職教員の方々を活用し、生徒一人一人の学習意欲を高めるために、個に応じた学習指導を展開します。

〔学習内容〕

教科	学習内容
国語	漢字検定への取組と関連させた漢字の繰り返し学習
数学	一人一人のつまずきに応じた補充的な学習
英語	英語検定への取組と関連させたコミュニケーションを中心とした学習

国語と英語については、検定への取組と関連を図った学習内容とし、具体的な目標をもって学習に取り組み、学習の成果をより実感できるようにした。

- ・学習支援を通して、生徒は次のような感想をもつなど、学習習慣の確立が図られた。

大事なところを丁寧に教えてくれて、リスニングが好きになりました。君

もともと数学が好きだったので、復習できて楽しいです。さん

漢字カルタや四字熟語など、いろいろな方法で勉強でき、楽しく漢字を覚えられました。君

繰り返し学習するとテストで解ける問題が増えてきました。さん

成果

- ・授業で定着が十分でなかったところを学習支援で補ったり、放課後の学習で学んだことを生かして授業を展開したりするなど、双方向で生徒の学力向上に取り組むことができた。
- ・つまずきを克服したり、漢字検定や英語検定に合格したりするなど、学習の成果を実感することにより、新たな課題に挑戦したり、進んで学習に取り組んだりする姿が見られるようになった。

課題

- ・生徒の学習意欲がさらに高まるよう、放課後や休日の学習との取り組む必要がある。
- ・学年の発達段階や生徒のニーズに応じ、学習内容を工夫する必要がある。
- ・本事業の家庭への啓発について一層工夫し、家庭学習の習慣の確立に努める必要がある。

生徒が自信をもって学習に取り組む、さらに新しい課題を見付け、取り組むことができるように支援します。

取組の特徴

本実践は、個に応じた指導の充実に努めるため、経験豊富な退職教員をボランティア等として活用し、きめ細かな指導を通して生徒が安心して学習に取り組むことができるよう工夫しています。また、生徒が学習に対して自信をもち、学習の成果を実感できるよう、新たな課題に挑戦させるなどの工夫をしています。

「平成20年度全国学力・学習状況調査」調査結果の分析項目等

道教委では、文部科学省から提供された調査結果等を次のような項目で分析しました。

項目の設定に当たっては、教育委員会や学校が児童生徒の学習状況や学校の取組の状況を明らかにし、その後の教育や教育施策の改善に生かすことができるようにしています。

「平成20年度全国学力・学習状況調査」調査結果の分析項目

教科に関する調査

平均正答数分布

- ・ A問題とB問題の全道（公立）と全国（公立）の平均正答率等
- ・ 調査全体の傾向の分析

問題Aと問題Bの相関

- ・ A問題の正答数とB問題の正答数の相関
- ・ 児童生徒の〔知識〕と〔活用〕の学習状況の関連の分析

設問別調査結果・解答類型別調査結果

- ・ 各設問の正答率60%未満の設問
- ・ 各設問の正答率60%未満の設問の誤答の状況の分析

各領域等の状況

- ・ 各領域の平均正答率、領域における各指導事項の正答率

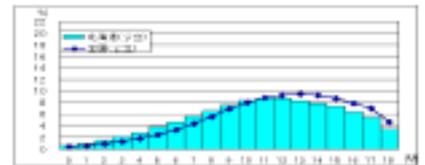
地域規模別

- ・ 市町村の規模別やへき地校の学習状況〔平均正答率等の状況の分析〕

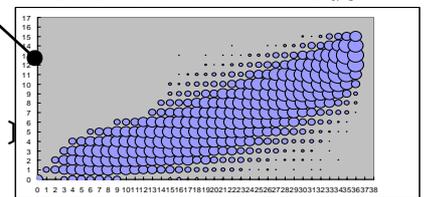
学校の状況

- ・ 学校の平均正答率の平均や標準偏差による学校のちらばり具合

正答数分布グラフの例



問題Aと問題Bの相関を表したバブルチャートの例



児童生徒質問紙に関する調査

学習・生活習慣に関すること

- ・ 家庭学習や就寝時刻など学習習慣や生活習慣に関する状況
- ・ 学習意欲や教科に関する感情等に関すること
- ・ 好きな教科、予習・復習の状況など学習意欲や教科に関する感情等に関する状況

豊かな心に関すること

- ・ 人の気持ちが分かる、きまりを守るなど、豊かな心に関する状況
- ・ 体験活動に関すること
- ・ 花を育てたり、海や山で遊んだりするなど、体験活動に関する状況
- ・ 「北海道教育推進計画」に設けられた目標指標の達成状況
- ・ 「北海道教育推進計画」における目標指標のうち、本調査を指標としている項目の状況

児童質問紙の表の例

学年	性別	学習意欲	好きな教科	予習・復習	家庭学習	就寝時刻	生活習慣	豊かな心	体験活動
小・中	男	45.2	48.0	48.5	44.3	71.4	44.0	48.2	48.8
小・中	女	45.1	47.9	48.4	44.2	71.3	43.9	48.1	48.7
高	男	45.0	47.8	48.3	44.1	71.2	43.8	48.0	48.6
高	女	44.9	47.7	48.2	44.0	71.1	43.7	47.9	48.5

学校質問紙に関する調査

学習習慣に関すること

- ・ 落ち着いた学習活動や文章を読む活動などにかかわる学校のとらえ
- ・ 学習意欲に関すること
- ・ 児童生徒の学習に対する熱意の状況などにかかわる学校のとらえ

指導方法・指導体制に関すること

- ・ 発展的な学習などにかかわる学校の取組状況

豊かな心に関すること

- ・ 児童生徒の規範意識などにかかわる学校のとらえ

学校質問紙の表の例

学年	性別	学習意欲	好きな教科	予習・復習	家庭学習	就寝時刻	生活習慣	豊かな心	体験活動
小・中	男	45.2	48.0	48.5	44.3	71.4	44.0	48.2	48.8
小・中	女	45.1	47.9	48.4	44.2	71.3	43.9	48.1	48.7
高	男	45.0	47.8	48.3	44.1	71.2	43.8	48.0	48.6
高	女	44.9	47.7	48.2	44.0	71.1	43.7	47.9	48.5

各管内（公立）の状況

教科に関する調査

- ・ 正答数分布、各領域における平均正答率
- ・ 質問紙調査
- ・ 児童質問紙、学校質問紙における回答状況

領域における平均正答率の例

